

水痘（みずぼうそう）の予防接種を受けられる方へ

病気について

水痘は水痘・帯状疱疹ウイルスの直接接触、飛沫あるいは空気感染によって広がる、最も感染力の強い感染症のひとつです。潜伏期は通常2週間程度（10～21日）です。特徴的な発疹が主症状でかゆみがあり、発熱を伴うこともあります。典型的な症例では、発疹は斑点状の赤い丘しんから始まり、水疱、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒するとされています。

通常1週間程度で治癒する疾患ですが、一部は重症化し、脳炎や肺炎、肝機能の異常を伴うことがあります。また、皮膚から細菌が感染して膿瘍や蜂窩織炎、敗血症などの重症の細菌感染症を合併することがあります。

初感染後は生涯、体の中（脳神経節や脊髄後根神経節）に潜伏感染し、加齢や免疫抑制状態等で再活性化し、帯状疱疹を発症します。

水痘ワクチンについて

水痘・帯状疱疹ウイルスを弱毒化してつくった生ワクチンです。麻しん、風しんなどの生ワクチンに比べ、その効果は少し劣ります。このワクチンを1回受けた人のうち、約20%は後に水痘にかかることがあります（発症予防率80%）。もしかかっても軽くすむとされていますが、確実に予防するためには2回の接種を行います。

水痘患者に接触した場合、3日以内にワクチンを接種すれば発症を予防できるとされ、院内感染の防止にも使用されています。

予防接種の受け方

- （対象年齢） 1歳～3歳に至るまで（3歳になる前日まで） 2回接種
（受け方） [1回目] 標準的には生後12か月～生後15か月に至るまでの間に接種
[2回目] 1回目接種より3か月以上、標準的には6か月～12か月までの間隔をおいて接種

注) 既に水痘に罹患したことがある人は対象外です。

予防接種後の注意と副反応について

- ① 予防接種を受けたあとはしばらくお子さんの様子をみた後、医療機関の指示に従ってください。
- ② 接種後24時間は、副反応の出現に注意し、観察してください。
- ③ 発熱もなく、体調がよければ接種日当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をなるべく、こすらないようにしてください。
- ④ 接種日当日はいつもどおりの生活をしてかまいません。激しい運動はさけてください。
- ⑤ 接種後、他の注射生ワクチンの接種を受ける場合は、27日以上の間隔をあけてください。
- ⑥ 健康小児、成人では副反応はほとんど認められませんが、時に発熱、発疹が見られ、まれに局所の発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）が見られます。また、まれにアナフィラキシー（蕁麻疹、呼吸困難、口唇浮腫、喉頭浮腫等）、血小板減少性紫斑病（100万人接種あたり1人程度）が見られることがあります。

接種後4週間くらいはお子さんの健康状態に気をつけてください。

機嫌がわるくなったり、異常があるときは、接種を受けた医師にご相談ください。また、下記にもご連絡ください。

(予防接種健康被害救済制度について)

重篤な副反応が出現する頻度は極めて稀ですが、みなさんが安心して予防接種を受けられるように、予防接種法では健康被害救済制度がもうけられています。

健康被害が生じた場合、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものなのかの因果関係を予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審議会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合は、法に基づく健康被害給付の対象となります。

お問い合わせ先

大東市地域保健課【すこやかセンター（保健医療福祉センター）3階】 ☎072（874）9500
四條畷市立保健センター ☎072（877）1231